全国の火山活動状況（1980年1月～3月）

気象庁地震課火山室

気象庁が常時火山観測を実施している精密観測4火山については，昭和55年1月以降3月末までの活動状況を，普通観測13火山とその他の火山については，報告をうけたものについて状況を要約した。火山情報発表状況を第1表に，全国火山活動状況を第2表に示す。

第1表　火山情報発表状況（昭和55年1月～3月）

火山名 / 情報	桜島	阿蘇山	浅間山	伊豆大島	十勝岳	御岳山	三宅島
定期	3	3	3	3	1		1
臨時	2	1				1	

第2表　全国火山活動概況（昭和55年1月～3月）

月 / 火山名	1	2	3
桜島	▲	▲	▲
阿蘇山	▲		△
雌阿寒岳			△
有珠山	△	△	△
御岳山	△	△	△
諏訪之瀬島		▲	▲
福徳岡の場		△	△
福神海山	△	△	△

▲ 噴火　　△ 異常

桜　島

爆発回数，噴煙回数，地震回数の月ごとの推移は第3表のとおり。2月前半に爆発がやや集中して発生し，爆発音，空振，噴石，火柱，火山雷等の表面活動の活発な爆発が，比較的多かった。

第3表　桜島火山観測資料

月	1980／1	2	3
爆発回数	12	20	10
噴煙回数	43	34	37
地震回数	2772	4637	5796

主な活動

・7月15日22時41分の爆発は多量の噴石を5合目まで飛ばし，火柱が2本，火口上200mの高さに上がった。この爆発のあと振幅の大きい微動が連続し，これに対応し活発なストロンボリ型噴火が1分おきぐらいに発生し，16日01時10分まで継続した。数個ないし多量の噴石を火口付近から6合目まで放出し，有村では軽石状の火山礫が多量落下した。桜島島内では窓ガラスがビリビリと鳴り，気象台の微気圧計には0.01～0.04mbの空振が連続して記録された。なおこのあと3月8日まで爆発を休止した。

・3月21日13時53分，14時40分，17時39分の爆発は雲におおわれて噴出物の状況等は観測されなかったが，黒神町字土地区から塩屋ケ元にかけて，褐色の火山灰（通称　赤灰）や大豆大の火山礫が降った。

阿蘇山

中岳第1火口は月初めから白色噴煙で噴出力も弱く，一部閉塞が続いていたが，1月26日21時07分爆発を起こした。当時，山上は濃霧と暗夜のため噴出状況等は観測することはできなかったが，山麓の阿蘇町や一の宮町では少量の降灰が観測された。爆発地震の最大振幅28.0μで，前年9月6日の爆発による16.7μより大きかった。翌日の現地調査によれば，今回の爆発により第1火口西側縁で少量の火山灰が観測され，火口の西北西側（行幸記念碑付近）では，泥土状になった火山灰が2－3cm積っており，付近にはこぶし大の噴石が2m²当り1個の割りで落下していた。火口縁の北西側から北側は悪天候のため観測できなかった。この爆発による噴出物量は阿蘇山測候所のまとめによると，約3万トンと推算された。

中岳第1火口は2月に入って大きな湯だまりとなり，これまで活動していた火孔は完全に閉塞状態となった。このため表面活動は少量の白煙と青白色ガスが噴出する割合穏やかな活動となった。3月8日08時07分，小さな噴出があり，ごく少量の降灰が火口の南西方で観測されたが，噴石は認められなかった。この噴出に伴う火山性地震の最大振幅は1.8μであった。小噴出後は白煙の噴出が続き，青白色ガスの量がやや増加した。火孔底は南側から南東側の一部を残して，大きな湯だまりとなったままで，所々で噴湯している。

地震回数等の月別推移は第4表のとおりで孤立型微動や連続微動は著しく減退した。

第４表　阿蘇山火山観測資料

月	1980／1	2	3
地　震　回　数	１４５	２６	52
弧立型微動回数（0.5μ以上）	１８０６	1	8
連続微動平均振幅（μ）	0.1～0.2	0.0～0.1	0.0～0.1

浅間山

遠望観測によれば，噴煙は１月８日にやや多量になったが，そのほかの日は中量以下で色は白色，高さも３００ｍが最高であった。火山性地震回数は１月上旬に一時急増したが，その後は次第に減少した。（第５表）

第５表　浅間山地震回数

観測点＼月	1980／1	2	3
A	１０１	２１	１２
B	５８７	８８	６１
C	４６２	７４	５６

伊豆大島

ときどき火山性地震が記録され，１月２０日にはやや増加したが，そのほかは特に変りはなく穏やかに経過した。

雌阿寒岳（札幌管区気象台　報告）

３月２８日２２時３６分，阿寒湖畔で有感地震があり，釧路地方気象台の調査によれば，震度分布は雄阿寒ホテルⅢ～Ⅳ，阿寒湖畔Ⅰ～Ⅱ～Ⅲ，野中温泉（雌阿寒岳温泉）０であった。野中温泉（釧路地方気象台所管，火山用地震計）と気象庁ネットにより，震源は雄阿寒岳付近，深さ数Km，マグニチュード3.0と決定された。

十勝岳（旭川地方気象台，２月１日　火山情報）

特に変りはなく，火山性地震回数は５４年９月２０回，１０月７回，１１月１０回，１２月２８回，55年１月２０回であった。

有珠山（室蘭地方気象台　報告）

噴煙活動も特に異常は認められず，表面活動は平穏に経過した。有珠山Ａ点における地震回数，有感回数の月別推移は第６表のとおりで，極めて緩やかに回数を減じている。

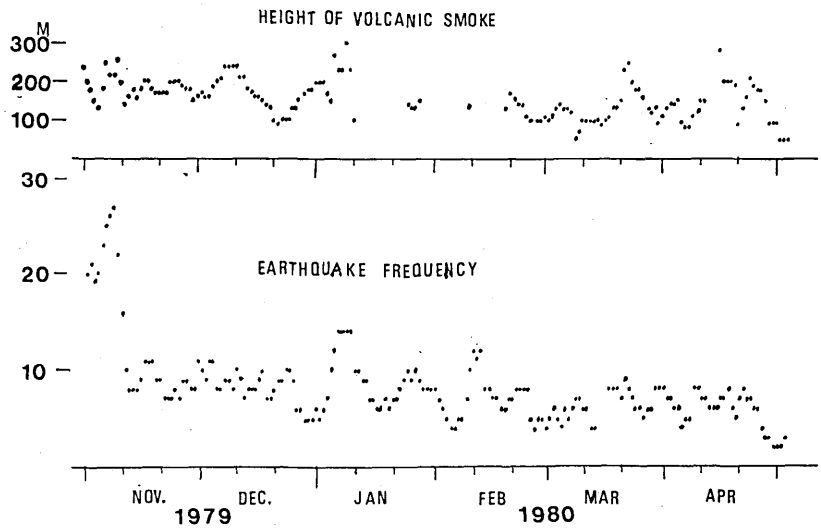
第6表　有珠山地震回数（A点）

1980／月		1	2	3
地震回数	月合計	1176	1004	890
	日平均	38	35	29
有感回数	月合計	234	216	162
	日平均	8	8	5

御岳山（火山機動観測班　報告）

気象庁火山機動観測班は御岳山の噴火後，同火山東南東麓の屋敷野（火口から約8Km）と南南東麓の九蔵（火口から約11Km）に携帯型地震計を設置し地震観測を実施し，また観測基地を屋敷野にし噴煙の遠望観測を実施した。1980年4月から屋敷野の地震観測を中止し，観測基地を九蔵に移し，九蔵と名大の8合目の地震記録を参照し，遠望観測を実施するとともに火山監視を続けている。

第1図は遠望観測による噴煙の日最高高度と九蔵における日別地震回数のそれぞれの5日移動平均を示した。1～2月は冬季の悪天候のため噴煙高度は不明の日が多いが，概して噴煙活動には周期的消長がみられる。地震回数も同様の変動を繰り返して，両者のピークが一致するケースもみられる。山麓の地震計には火口で発生する地震は距離的にみて記録されにくいと考えられるので，両者に直接的な因果関係は求めにくい。また1979年11月初めの地震回数の水準が，その後のものと比べて不連続的に高いのは，噴火活動に間接的に関連するものかどうかについてもよくわからない。



第1図　遠望観測による御岳山噴煙の毎日の最高高度の5日移動平均（上段）と九蔵における日別地震回数の5日移動平均（下段）

噴煙活動がやや活発であった日は次のとおり。

1980年	1月 8日	白色	少量	噴煙高度	500m	
	1月29日	機動班は確認しなかったが，多量の噴煙が1000mの高度に達したとの報告あり				
	3月24日	白色	中量	噴煙高度	300m	
	4月 3日	〃	〃	〃	〃	
	4月18日	〃	〃	〃	500m	田ノ原で弱い降灰と強い硫黄臭
	4月25日	白色	少量	噴煙高度	300m	
	4月28日	〃	〃	〃	〃	

火口状況

陸上自衛隊東部方面総監部の協力により自衛隊機による御岳山の火口撮影が1979年12月18日，1980年1月9日，3月25日実施された。1979年10月28日の爆発後E_1，E_3，E_9 火口による噴煙が観測されていたが，1月9日の写真によれば，E_9 火口に隣接するE_{10} 火口が再活動により火口径が拡大し，噴煙を上げていることが判明した。再活動の時期は，1979年12月18日以後1980年1月9日までの間と思われるが正確にはわからない。山麓からの遠望観測によれば，E_1，E_3，E_9 E_{10} 火口による噴煙が観測され，このうちE_{10} 火口の噴煙が比較的活発である。（火口配置については本会報第17号P60参照）。

三宅島（三宅島測候所　3月10日火山情報）

3月7日，雄山の現地観測を実施したが，前回の（12月12日）と比較してほとんど変化はなく，特に異常は認められなかった。火山性地震は12月4回，1月5回，2月5回で，三宅島近海の地震も含まれている。

諏訪之瀬島（諏訪之瀬島分校　報告）

1980年1月　噴火なし

2月　噴火（4日，5日，6日）

3月　噴火（21日，22日，30日）

2月4日から噴火していたが，6日12時ごろから噴火回数が増えはじめ，1時間に3回程度の噴火を繰り返し，6日23時まで続きその後は平常に戻った。噴煙の高さは1000mであった。

海底火山（海上保安庁水路部　報告）

福神海山

変色水視認（1979年10月25日，11月18日，12月12日，1980年1月29日，2月15日，3月19日）

南日吉海山

変色水認められず（1979年8月24日～1980年4月24日）

福徳岡の場

変色水視認（１９７９年９月９日，９月１３日，１０月２５日，１１月８日，１２月１２日，１９８０年２月１５日，３月１９日，４月２４日）